

孤立感「常にある」10%

淑徳大読売 ④

共同千葉県調査

政府は2021年、「孤独・孤立対策の重点計画」を策定し、24年4月には孤独・孤立対策推進法が施行された。

「淑徳大学・読売新聞共同千葉県調査」では、県民の孤独・孤立状況を調べた。

設問は、①自分には人とのつきあいが無いと感じることがある②自分は取り残されていると感じることがある③自分は他の人たちから孤立していると感じることがある——の三つ。政府が23年に実施した「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査」を参考に、「決して・ほとんどない」「た

まに・時々ある」「しばしば・常にある」の3分類で回答を集計した。

このうち、「しばしば・常にある」という回答は、設問①「人とのつきあいが無いと感じる」では15・3%、②「取り残されていると感じる」では9・3%、③「孤立していると感じる」では10・1%。感じていることがわかる。

孤独・孤立を感じていることと、自殺願望との関連性も調査した。「本気で自殺したいと考えることがある」という問いを設け、回答を「決して・ほとんどない」「たまに・時々ある」「しばしば・常にある」の3分類で集計した。その結果、設問①「人とのつきあいが無いと感じる」で

自殺願望と関連性も

「しばしば・常にある」と答えた人の27・8%は、本気で自殺したいと考えることが「しばしば・常にある」と回答した。

設問②「取り残されていると感じる」に対して「しばしば・常にある」と答えた人の46・6%、設問③「孤立していると感じる」に「しばしば・常にある」と回答した人の41・9%も、本気で自殺したいと考えることが「しばしば・常にある」と答えた。

こうした結果から、孤独・孤立を感じていることと自殺願望を抱くことに関連性があることが読み取れる。自殺防止のため、人と人のつながりをつくる施策の実施や、孤独・孤立を感じる県民への支援が急がれる。